

全国学力・学習状況調査結果について①

これからの子どもたちには、学んだ知識・技能を実社会や実生活の中で実際に活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究していくことが求められています。その指標のひとつとして、全国一斉に6年生対象の調査が今年4月に実施されました。調査結果の本校分析がまとまりましたので、お知らせします。

・国語…全国・県平均ともに下回りました。 ・算数…全国・県平均ともに下回りました。

今回より国語、算数2教科ともA（知識）・B（活用）形式がひとつにまとまり、昨年度結果と直接比較はできませんが、全体の傾向についてお知らせします。

本校はこれまで、「算数科」を研究領域とし、職員が「難しい課題」を開発してきました。授業において子どもたちが「解いてみたい」という意欲を持って課題に挑戦し、「できた」「わかった」の体験を大切にしてきました。6年生が、1年前（5年生の4月）に実施した学力検査（NRT調査、みえ・スタディチェック）を分析したところ、本校児童には図形・数量領域に課題があることが判明しました。そこで全学年で特に図形課題について重点的に研究し、「測る」「量る」体験活動を取り入れたり、「難しいけれど、解いてみたい課題」を与え続けてきたりしました。その結果、図形領域の結果は、全国平均、県平均とほとんど同じでした。昨年度の6年生同様、算数科については、研究・取り組みの成果が出てきていると言えます。

とはいえ、すべての基本は「国語科」であり、児童の言語能力やコミュニケーション力を身に付けるためには、言語活動の充実を推進する必要があることが再確認できました。昨年度、笹川中学校区の幼稚園・保育園・小学校・中学校間において、幼児・児童・生徒共通の必要な力は「読解力」であることが確認されました。本校は、今年度の「学校づくりビジョン」改訂に伴い、新聞教材（学校だより第13号裏面参照）の使用や作文指導を推進しています。今回の結果を受け、学年に応じ、作文に字数制限を設けたり、段落を意識させたり、辞書を引いて正しい意味の言葉を選択させたりするなどに取り組み、語彙力のアップも目指していきます。引き続き担任（校長）、図書館ボランティアさんの読み聞かせを継続し、「集中して聴く力」「やさしい心」も身に付けていきます。

素晴らしい夏休み自由研究に取り組めた四郷っ子です。まずは「ゲームから読書」を合言葉に、ご家庭においても、宿題はもちろん、「プラス1（自主学習）」にも引き続き粘り強く取り組ませていただきますようお願いいたします。

最後になりますが、学習状況調査（子どもたちの生活や学習などの意識を調べるもの）結果において、「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」の肯定回答は、県・全国平均とほとんど同じでした。「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で新しい問題（難しい課題）に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」の肯定回答は、県・全国平均を大きく上回っていました。さらに、国語・算数両教科とも、無回答率は0に近く、6年生が最後まで真面目に取り組めた様子が伺えました。6年生児童には、すでに結果個票を配付済みです。今後の学力向上のための指標のひとつとして、お子さんの「強み」「弱み」をご確認ください。

次回の「学校だより」では、学校だより13・14号でも少し触れましたが、学習状況調査結果を中心にお知らせします。なお、次年度からの学習指導要領改訂に伴い、教科書や連絡表形式も改訂されることとなります。

